

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部1年 鬼頭篤史

① 学習成果

このプログラムで初めて海外渡航と中国語での中国語学習を経験し、外国語の学習と使用、特に会話のとらえ方が大きく変わった。今まで日本語以外での会話が必要な場面には授業以外ほとんど遭遇しなかったが、海外に行くとなればもちろん行きの機内から使用言語は英語もしくは中国語であった。それ以降も大学や台北の街中では複雑なことは英語で、それ以外は今まで学んだりその場で調べたりした片言の中国語でやり取りをすることになった。しかし、大学の座学で1年間、それも特別熱心に学んだわけでもなかった中国語では、現地の方の話の聞き取りや咄嗟の受け答えは当初ほとんど出来なかった。代わりに頻繁に英語でやり取りすることになったが、こちらの場合聞き取れはするものの英会話経験の不足と自身の内向性からやはり積極的、円滑な発言は難しかった。

このことで台湾の人々、特に台湾大学の学生との交流の機会を多く逃してしまったことは大変残念に思う。これは、文字情報の読み取りにおいて繁体字漢字の雰囲気と英語表記の知っている英単語の組み合わせで内容理解にあまり問題が生じず、博物館などの観光を日本と同様に楽しむことができたことと対照的だった。このことで私が海外での生活、外国語での学習を目指すに当たって欠けているのはとにかくたくさん(必要に迫られて)その言語を聞き、話す経験と、語学には直接関係のない全般的な積極性だと気づくことができた。日本でも留学生と話せる場所など会話経験を積む機会は多く用意されており、今後まだ明確な留学予定はないものの、まずはそのあたりから中国語や英語にもっと慣れようと思う。

② 海外での経験

私にとってこのプログラムが初めての海外渡航であったが、台北での生活に関しては日本とさほど変わらないというのが最終的な印象だった。朝ごはんの夕食、道行く二輪車の多さなど細かな文化の違いはあれど、生活インフラに関して違和感を覚えることは少なく、コンビニや飲食店、交通機関の充実度は日本以上にすら感じられた。

授業は主に平日の午前と午後の早い時間帯にあり、平日の夕方以降と土日にはかなりの自由時間があつた。私は平日に台北市内、休日に遠方や大型の観光施設を訪れることとして、他の参加者と誘い合わせて台湾各地を旅行した。台北市内には数多くの夜市が存在し、毎日日本の縁日のような屋台が街中に列をなしていた。ここでの買い物は現金、中国語での会話が必須であり、今回の渡航で実際に中国語を使う貴重な機会となった。また、2度目の週末にはインターネット上で見つけた花蓮近郊の絶景スポットに鉄道で行ったのだが、駅からの徒歩経路(片道1時間ほど)が事故多発地帯であったことを帰国後に台湾出身の方から聞き、現地で詳しく情報収集すべきだったと後悔した。

③ プログラム内容

到着、出発日を除く平日の午前には、事前のインターネット上でのテストに基づいて振り分けられたクラスでの中国語(たまに英語)による中国語授業があつた。午後は台大の学生の方が台湾文化紹介、体験を行ってくれたり、宿題を手伝ってくれたりする時間や、台大や故宮博物院の方が英語で台湾の様々な側面を紹介してくれる授業、台北市内の文化的な観光名所を実際に訪れて詳しく解説してくれる授業などがあつた。休日は2週目の土曜日に1日かけて全員で旅行に行くほかは基本的に完全な休みだった。中国語の授業では、先生が生徒1人1人と次々中国語で会話をしていくクラス、生徒同士で予習として考えた内容に合わせて会話するクラスなど、生徒の習熟度によって異なる方式がとられていた。どのクラスでもとにかく中国語で話すことが重視されていた。

④ 進路への影響について

台湾は恐らく文化的にも地理的な面からも日本にとっても近い方なのだと思うが、海外で3週間の学生生活ができたことで、将来海外に行く可能性のある職種を選ぶ抵抗感がかなり薄まったと思う。一方で、日本で暮らす快適さ、安心感も改めて痛感したため、海外に完全に生活の場を移すような進路は今後も目指しそうにない。